

とじ込み付録

作品の実物大型紙

Quilts Japan

# キルトジヤパン

2014  
4月号

春

157号

年4回発行  
日本ヴォーク社

特集

あまった布も、とっておきの布も、  
さあ出番です!

## スクラップキルト、 春めく!

ヨーヨーキルト

—ノスタルジア—

特集2

シンプルバッグで  
街に出よう!

今月のキルトギャラリー

猫のキルト

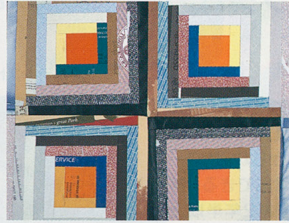


1. 左側はAFAM所蔵のメリー・ジェイン・スミス作「ログキャビンキルト」(205.74×187.96cm)。  
2. 右側は、ステファンさん作のペーパーキルト『無題(送り主に返送 メリー・ジェイン・スミスに寄せて)』(199.7×182.88cm)。ステファンさんのペーパーパッチワークのきっかけとなった作品です。



マンハッタンのセントラルパークに近く、大きなコンサートホールなどがある文化的なエリア、コロンバス・アベニューにあるアメリカン・フォーク・アート美術館。所蔵品の一般展示室は残念ながら無く、嗜好を凝らした企画展のみの美術館です。

American Folk Art Museum  
2 Lincoln Square  
Columbus Avenue  
at 66th Street  
New York, NY 10023  
<http://www.folkartmuseum.org/>



## ペーパーパッチワーク

前回に続き、ニューヨークにあるアメリカン・フォーク・アート美術館(以降AFAM)にて開催された「art quilts (もう一つのキルト展)」に出演作家として選ばれた3名の若手現代アーティストをご紹介します。後編はペーパーパッチワークで注目されるステファン・ソリンスさん。プルックリンのスタジオにて、作品制作について伺いました。

写真家であり現代アーティストであるステファンさんは伝統様式や歴史をテーマにした作品が多く、AFAM発行の所蔵キルトを研究、紹介した『ゲロリアス・アメリカン・キルト』を史料として愛読していました。数々のキルトの名作を見ながら、それらの作品の作者が、どういう意図でこれらの美しい作品を作り

## 野口光の 世界の手仕事から

イギリスを拠点にニットアクセサリーデザイナーとして活躍する、南アフリカ在住の野口 光さんが、世界の手仕事を紹介します。

写真・文/野口 光

Noguchi Hikaru

上げたのかを知りたい、なぜ自分がこんなにもそれらの作品に惹かれるかを理解したい、それぞれの作者が制作の際にどのような美しい作品を作り上げるさまざまな要素を、どのような判断で生み出したのかということを理解したいという気持ちが募りました。そこでステファンさんが愛してやまないAFAMの所蔵作品の名作の一つ、メリー・ジェイン・スミスのログキャビンのパターンの作品を古封筒紙で模写することを思い立ちます。「ゲロリアス・アメリカン・キルト」に掲載されているこの作品をカラーコピーし、ブロックごとに切り分け、ブロック内の二辺一辺の色や模様を丹念に検証して、深い色合いの作品にそっくりように、色封筒紙や印刷部分が多い封筒を選びました。「メリー・ジェイン・スミスのログキャビンの作品は一見、アトランダムに選ばれた深い色合いの生地を縫い合わせたように見える作品ですが、1ブロックずつ検証をしていくと、かなりの綿密な計画を持って創作されたことがわかってきます」とステファンさんは語ります。誰かが丹念に作り上げた作品を再現することとは、検証、模様や色の照合作業などを要することから、キルト作家の創作手順とは全く違う過程を経て作り上げられます。平面作品の再現、ということであれば、紙をパターンに合うように切り、台紙に貼り込むだけでも同様の効果が出ますし、コンピュータグラフィックを使えば、コンピュータ画面で幾らでも再現することは可能です。しかしながら、ステファンさんは、ピースごとに原作に合う色や模様を紙から選び、ピースに縫い代ではなく、数ミリののり代を作り、あたかも縫い合わせるように、紙のピースを貼り合わせて作品を作り上げます。そのため、平面作品なのに、ピースの二つひとつが微妙に浮き上がり、布製の原作により近い印象にでき上がります。今回のart quilts展で初めて

実物のAFAM所蔵作品を見たというステファンさん。「このメリー・ジェイン・スミスの作品は、本に記載されていたサイズが実物と若干違うことが判りました。古封筒紙を使ったということ以外では全く同じ作品を作ることを目的にしていたため、この誤差は、とても残念に思います。ただ、大好きな作品と自分の作品が横並びで展示されるなんていう機会があることを想像もしていなかったので、本当に嬉しいですね」とステファンさんは語ります。その後、この作品はAFAMの所蔵作品として買い取られました。

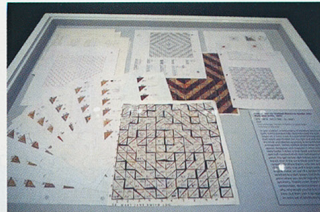
自分でこれは一番適切な素材、表現方法であると決めたら、下準備や作業の細かさや量をいとわないというステファンさん。過去に刺しゅうの連作を発表したことがあるステファンさんですが、素材として選んだのは封筒。封筒とは人と人をつなぎ、個人のプライバシーを包むという目的の紙袋。それは、睡眠という個人的な行為を包むキルトのベッドカバーにも通じるものがあります。そうして封筒に使われている紙の多くは、裏側に極細密模様が施されています。ステファンさんはそんな極細密幾何学模様注目します。模様のサイズは、紙幣のバックグラウンドに刷られた模様同様の細かさ。細かすぎて、模様があつたかどうか意識させないほどのもの。そのほとんどが青やグレー。これらの超細密幾何学模様は19世紀の銅板プリントのコットン生地の小紋柄と類似するものが多くあります。事務仕事をする友人たちに声をかけ、数年かけて古封筒を集めました。それはパッチワーク愛好家が、仲間に必要な生地を募ることに似ています。集まった封筒は丁寧に解体され、模様、色別に丁寧に見分けられます。収集されたファイルを見ると、封筒の裏側に、こんなに模様の種類や色があつたことに驚かされます。また、ステファンさんは宅配便会社が書類の梱包に使うタイプックという超



6



5



3

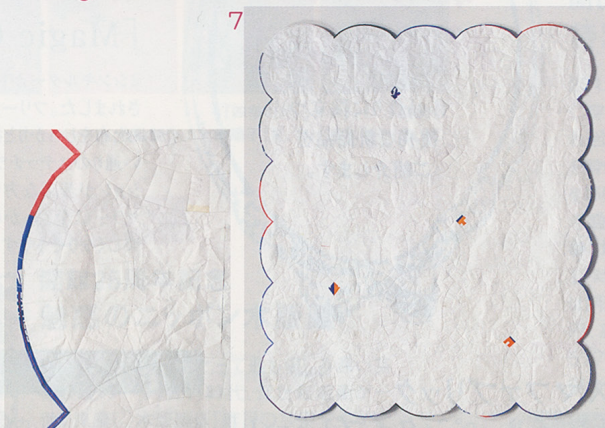


4

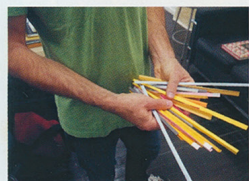
5. AFAM所蔵作品「Le Moyne Star Crib Quilt」(130.81×95.89cm)1920~40年代頃制作。

6. ステファンさん作のペーパーキルト『無題(思案の後)』(105.09×79.04cm)写真提供/Stephen Sollins

7. ステファンさん作のペーパーキルト『無題(はじめは愛...)』(212.09×179.70cm)2010年制作。タイベックと呼ばれる工業用不織布で作られた、使用済みの国際郵便物の封筒の裏を張り合わせて作ったダブルウェディングリングの 패턴のペーパーキルト。ウェディングドレスを連想させる純白のタイベック素材。使用済みだから浮かび上がる微妙な'皺'が純白の素材に美しい光と影を生み出します。写真提供/Stephen Sollins



7



8



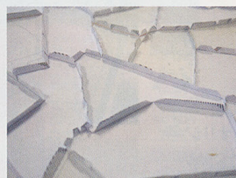
9



10



11



12

8. 新作の制作風景を見せていただきました。色つきの事務封筒も収集しています。ステファンさんの活動を知った世界各国で働く友人知人たちが使い古し封筒を送ってくるそうです。国によって紙の風合いが違い、興味深いか。

9. 縫い代ではなく、のり代をつけながら、丁寧に切り分ける作業は、布同様、根気と集中力が必要です。

10. 何千枚と収集した使い古しの事務封筒は色、パターン別に番号が振られ、丁寧に仕分けされています。この写真は数ページにわたる仕分けインデックス。こんなに大量のバリエーションがあったことに驚かされます。

11. 完成間近なクレイジーキルトのパターンを再現した新作。ベルベットやシルクサテン、刺しゅう使いが華やかな典型的なクレイジーキルトとは相反して、紙のフラットでマットな表情と、黒白モノトーンでまとめた無機質な雰囲気興味深い作品です。

12. 作品の裏側。なるほど! こうなっているのですね。

取材協力/Stephen Sollins  
<http://stephensollins.com>

軽量不織布素材を使った使用済み封筒も作品に取り込みます。それらの作品はチンツを連想させるような不思議な艶や質感があります。  
大半のAFAM所蔵の名作キルト作品の作者は不名です。作者の創作動機はそれぞれでしょう。休息の時間を包むキルトのベッドカバーを、家庭の女性がかかりの時間とさまざまな静かな思いを込めて作り上げ、アメリカの生活史を語る上で重要な役割を持つキルト。ステファンさんはそういった古い針仕事に強

烈な力を感じ、莫大な時間、集中力を掛けて検証、照合し、個人のプライバシーを包む役割を終えた古封筒裏紙で模写します。それは19世紀の画学生たちが、歴史的名作をくり返し模写する行為にも似ています。模写をする中で、作品のパターンのリピートが不規則だったりする部分や、間違い部分などを発見することで原作者の人間味を感じられたり、作者の思いやメッセージを共感する手がかりになるのです。自分と作者だけの秘密の会話を通じてでき上がる

ステファンさんのペーパーパッチワークの連作は、まるで古い手紙を読み直した時のような、温かな思い出を連想させるようなものばかりです。この展覧会、そしてステファンさんの一連の作品やインタビューを通して、布製であろうが、紙製であろうが、フィルム製であろうが、パッチワークは、単なる幾何学模様遊び、ベッドカバー、壁飾りなどという機能を持ったもの以上の人の心を動かす恒久的な魔性の魅力があることを再確認する機会となりました。

## 野口 光 Noguchi Hikaru

武蔵野美術大学卒業後、ロンドンのミドルセクス大学テキスタイル科に留学。イギリスのインテリア誌「ワールド・オブ・インテリア」のベストワークに選ばれ、1995年に英国工芸協会の事業設立助成金受賞者となる。現在世界各国で「HIKARU NOGUCHI」の商品を販売。著書に「hikaru noguchiニットワーク ファッション小物とウェア」(日本ヴォーグ社)など多数。<http://www.hikarunoguchi.com>